

志比内小学校 令和4年度学校経営の方針

1 はじめに

令和へと時代は移り、社会はグローバル化の進展により、人工知能（AI）、ビッグデータ、ロボット工学等の先端技術が高度化している。この技術はあらゆる産業や社会生活に導入され、社会のあり方そのものが劇的に変わるとされるSociety5.0時代の到来が間近である。今こそ学校は、子どもたちがこれからの社会を自立的に生きるための資質・能力を確実に育み、時代や社会のニーズに合わせた改善をしていかなければならない。

未来を切り拓いていく子どもたちには、文章を理解する力や、各教科の見方・考え方を働かせて自分で考えて表現する力の育成が課題となっている。また、情報や手段を主体的に選択し、活用するために必要な情報活用力、対話や協働を通じて知識や考えを共有し、新しい解決方法を創り出す力等も求められている。

学校は、未来を生き抜く子どもたちのために、学びの質や学校力を向上させなければいけない。そして子どもたち一人一人の学びを支え、新しい時代を生き抜く資質・能力を育成しなければならない。私たちは「自立」と「共生」という北海道教育の基本理念の下、北海道教育委員会及び東神楽町教育委員会が示す教育行政執行方針の下で、本校の教育目標「強く正しく美しく」の実現を目指している。平成31年より東神楽町は「児童生徒の夢と自信を育む東神楽町小中一貫教育」というテーマのもと、小中一貫教育の取組を進めてきた。学校や家庭、地域や教育委員会が一体となった教育活動の推進・評価・改善を進めていくことで、ふるさとを愛する心を育む学習の充実や子どもたちが健やかに成長できる教育環境の充実を図る。

2 本校教育の課題

本校では、教職員全員の協働体制のもと、自然に親しみ、地域の人から学ぶ体験的な教育活動が推進されており、明るく、活動的な子どもたちが育っている。しかし、学校評価や各種検査では、自ら目標をもって主体的に学ぶ力や、自己肯定感、生活習慣や学習習慣の定着等に課題が見られた。子ども一人一人の良さや努力を認め励まし、児童同士での認め合う教育活動を充実させながら、自己肯定感や有用感の向上を図ることが喫緊の課題となっている。そのために、望ましい学習習慣や生活習慣の育成に取り組み、良好な人間関係を構築し、規範意識の醸成に努める。また、コミュニケーション能力や自分の考えを表現する力の伸長を図ると共に、学ぶ意欲の向上を図ることで、基礎学力の一層の定着に努めていく。そして保護者・地域の人々の信頼に応える学校運営を進めていく。

さらに本校は山村留学校特認校という特殊性を踏まえ、保護者や地域の人々の願いを真摯に受け止め、地域の学校としての役割を果たし、教育活動における課題と成果を共に分かち合える学校づくりに向け、以下の4点の課題を設定し、教育活動の質を高めていく。

- ①課題の発見・解決に向けて主体的・協働的に学び、表現する力の育成
- ②人間関係調整力（コミュニケーション能力）の育成
- ③自己肯定感や自己有用感を高める指導や児童同士の認め合う心の育成
- ④基本的な学習習慣・生活習慣の確かな定着

これらの課題解決に向け、基礎・基本を重視した「確かな学力」や人間尊重の理念に基づく「心の教育」、たくましく「健やかな体」の育成を基盤とした地に根を張った学校経営を推進することが求められている。

本年度は、これまで進めてきた取組を継続しながら、子ども一人一人の学びの質を向上させ、子どものよさを引き出し夢を育む教育を基本に進めていく。そのためには小規模・複式、特認・山村留学等といった本校の特性や良さを生かし、志比内地区の豊かな自然や人、歴史、文化にふれる学習活動を展開していく。

3 学校経営の基本方針

楽しく学び、確かな学力や豊かな人間性を育める学校づくり

全職員が子どもたちに対し愛情をもって接し、教育目標の実現に向けて全力を尽くさなければならない。そのためには、全教職員が相互理解を深め、信頼関係を築き、情報を共有する中で協働体制を確立し、組織的・計画的な教育活動を推進することが大切である。子どもと保護者・地域社会を常に念頭に置き、教職員全員が全ての子どもへの担任であるとの意識をもって指導に当たる必要がある。さらに、愛情と厳しさをもって一人一人に応じた指導を行うためには、教職員全員が教育に対する情熱と専門性を高め、子どもの成長する力を信じ、その力を引き出していく学校・教職員集団でありたい。そして全教職員の連携・協力を基盤とした確かな指導体制が不可欠である。

さらに学校は、家庭・地域との連携をしっかりと図り、子どもたちが楽しく学び、自信をもって表現できる教育活動を展開し、その成長する姿に教師や保護者、地域が確かな実感をもてる学校づくりを推進していく。

- ◎学ぶ楽しさと豊かな心が育つ学校づくり～学びの質を高める授業改善～
 - ・生きる力を育む教育課程の創造 【確かな学力の育成】
 - ・自分を大切にし、他人を思いやる温かい心の育成 【生徒指導、心の教育の充実】
 - ・一人一人の子ども良さを認め、頑張りや個性を生かす実践 【認め、励まし、個性を生かす実践】
- ◎教職員が協働できる学校づくり
 - ・教職員の意識改革 【教育愛と使命感に基づく協働体制】
 - ・校内研修の充実 【同僚性と授業改善】
 - ・協働体制の確立 【組織による課題解決】
- ◎保護者や地域から信頼される学校づくり

- ・うるおいのある生活の場としての内外環境整備 【環境整備・危機管理】
- ・学校・家庭・地域社会の連携 【信頼関係を礎にした共育】
- ・開かれた学校づくりの推進 【積極的な双方向の情報交換】

(1) 本年度の重点目標

「自他の良さを認め合い、自分の考えや思いを表現できる子どもの育成」

□「自他の良さを認め合い」

- ①学びの質を高める授業改善により、自他の良さや頑張りを実感し合える学習活動を推進する。
- ②地域の自然や人から学び、多様な考え方にふれながら交流することで視野を広げ、発想力を培う。
- ③個々の子どもに応じたきめの細かい指導や、励まし、認めて自信をつけさせる指導による、自己肯定感や有用感を向上させる。
- ④児童会活動や各発表会での異学年交流の活動の充実により、協調性やリーダー性を育てる。

□「自分の考えや思いを表現できる」

- ⑤独創的なアイデアなど個性を表現するコミュニケーションスキルを育成する。
- ⑥相手意識をもって、意図や目的を明らかにして、自分の考えや思いを伝え合う活動を充実させる。
- ⑦育てたい子ども像を明確にしなが、子どもに目標をもたせ、主体的に取り組みさせることにより、主体性を育て、達成感や満足感をもたせる。
- ⑧ICTの活用力を向上させ、学んだことを工夫しながら、わかりやすく発表する力を向上させる。

(2) 重点を推進するに当たって

○**学び方の基礎・基本**～主体的、対話的で深い学びを実現する

- ・基礎・基本の定着と体験的な学習活動や課題解決学習活動を進める。また、振り返りを生かし、一人一人のよさや可能性を引き出す「分かるできる授業」の展開に努める。

○**生き方の基礎・基本**～豊かな発想で他者と協調しながらより良く生活する

- ・体験活動や道徳の時間を充実させ、将来の夢や希望をもたせる指導を行う。また、互いにめあてをもって高め合いながら助け合う心、思いやる心や広い心など豊かな心を育てる。

○**暮らし方の基礎・基本**～明るく生き生きと活動し、楽しい学校生活を実現する

- ・学校、家庭、地域と連携し、ゆとりとうるおいのある教育環境のなかでのびのびと楽しく生活し、健康でたくましい心身を育てる健康・安全指導に努める。

(3) 経営の重点

あたたかい学校づくり

- ・子どもの目線に立った学級経営の推進 ・情報共有を根拠にした協働体制に基づく経営参画意識の向上

いきいきとした教育活動の充実

- ・学び方、生き方、暮らし方の基礎基本を育む教育活動の充実 ・資質向上を図る研修の推進

うるおいのある環境づくりと危機管理

- ・子どもの活動が見える環境づくり ・安全、安心な学校づくり

えんかつな学校運営

- ・PDCAサイクルに基づく改善・充実 ・学校評価を生かした改善・充実

おだやかな学校づくり

- ・家庭、地域に開かれた学校の推進 ・教育公務員として自覚と責任の醸成

(4) 今日の課題として重点的に取り組む項目

【新型コロナウイルス感染予防の徹底】

新しい生活様式に基づいた生活スタイルや道教委の通知を遵守し、町教委や各家庭と密に連携し、日常の児童の体調管理や情報共有を徹底する。感染予防を考慮した学習スタイルや学校行事の工夫などに努めると共に、子どもたち自身の感染予防の意識を向上させる。また町内や近隣校の対応事例を蓄積しながら、小規模校ならではのより具体的な対応マニュアルを作成する。

【働き方改革】

学校における働き方を見直し、教職員が子どもと向き合う時間を保障できるよう、人員や人材の確保や、子どもたちが個別最適な学びをできるよう職員の配置の工夫に努める。長期的にはICTの活用による授業や教育活動の実践事例の蓄積や、校務データの整理を進め、教職員の業務効率の向上に努めていく。

【GIGAスクール～ICTの活用】

ICT活用に向けた環境が整備されたのを受け、その活用を推進すると共に子どもたちに情報モラルを身につけさせ、安心安全に活用する意識を高める。また子どもたちのICTの活用による表現力やプレゼンテーション力の向上につながる学習活動を教科横断的に進めていく。

【小中一貫教育の推進】

小中一貫教育の充実に向けての組織体制を確立し、学校行事や生徒指導において学校間の連携を積極的に図る。今後は幼保との情報交流や連携も視野に入れ、スタートカリキュラムを充実させ、入学児童がスムーズに学校生活に適應できる教育課程の編成につなげていく。特に町内の小学校3校合同の宿泊研修や防災教育プログラムの合同実施により、小学校間の実践交流を充実させることにより、児童間の相互理解や中1ギャップの解消につなげていく。

【特別支援教育の充実を基盤とした、個に応じた教科経営や学級経営の推進】

校内研修で特別支援教育の充実に必要なスキルアップや事例研修を行い、小規模校ならではの個に応じたきめの細かい教科経営や学級経営を推進していく。家庭との連携に力を入れると共に、保護者と医療機関や相談機関等の関係機関の橋渡しを行い、家庭での抱え込みが生じない配慮をしていく。

(5) 指導の重点と具体策

① 「生きる力」を育む教育課程の充実

子どもの実態や課題をもとに、志比内小学校改善プランを見直し、「基礎・基本の定着を図る授業改善」や「学習時間の確保」、「キャリア教育の推進」など実効性のある取組を推進して、学びの質を高め「生きる力」を育みます。さらに、繰り返しの指導と学習状況の評価を位置づけた教育課程の改善を図ります。また、東神楽町小中一貫教育推進委員会での協議を基盤として、義務教育9年間を通した「育てたい子ども像」を目標とする、小中一貫した教育課程の充実に努めます。

具体的な改善内容

【言語活動の充実】

- 言語活動は、あらゆる教育活動の基盤となるものです。各教科で横断的に、多様な言語活動を行い、言語力を高めます。また、本年度も朝読書や秋の読書月間、読み聞かせ会を継続し、本に親しむ機会をより多く設けます。さらに、児童会活動や学級の話し合い活動などで相手意識をもって意図や目的を明らかにして自分の考えや思いを伝え合い、認め合う活動を充実させます。

【探究的な学習過程を重視した総合的な学習の時間の充実】

- 各教科で身につけた資質・能力を発揮させるため、課題を見だし、集めた情報を整理・分析し、まとめ・振り返る探究的な学習過程を身につけさせます。また、各単元の身につけさせたい力の小中一貫した系統性や連続性を整理し、地域の人材や環境を活用した、より良い教育課程を構築していきます。

【情報活用能力の育成】

- 基本的な情報機器の操作を確実に身につけさせると共に、児童をネットトラブルの加害者や被害者にさせないように、情報モラル教育を充実させます。また各教科の指導におけるICTの活用を積極的に行い、児童が学んだことをICTを活用しながら学んだことを工夫してわかりやすく発表する力を育成します。

【キャリア教育の充実】

- 行事や集会、校外学習の目的を明らかにし、子どもたちの将来の社会的及び職業的な自立を念頭に置いた教育課程を編成し、働くことの意義を理解させたり、子どもが夢や目標をもって、将来の職業について学ぶ力を育成します。

【体験活動の充実】

- 社会性や豊かな人間性を育むため、発達段階に応じ志比内地区の豊かな自然や人材を十分に活用し、自然や歴史、文化などにふれる体験活動などを推進します。
- 事前にねらいを十分理解させるとともに、事後に感じたり気付いたりしたことを文章にまとめたり、伝え合う活動を充実させます。

【特別の教科 道徳の充実】

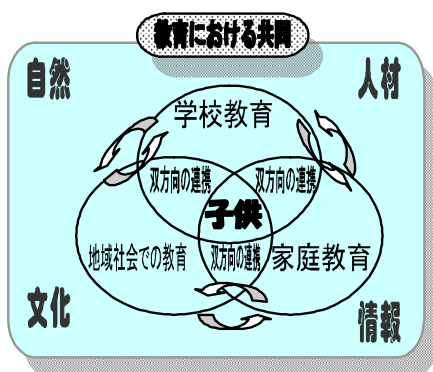
- 道徳のねらいを明確にして道徳の授業の改善を進めていきます。「考え、議論する道徳」に向けた授業改善を図り、道徳的实践力を高めます。道徳の授業の全学級公開等を通し家庭との連携を深めます。

【外国語教育の充実】

- 幅広い言語に關する能力や国際感覚の基盤を培い、言語・文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図る態度を育成します。また、複式授業の工夫改善を図ります。※今年度も中学英語教諭派遣授業を実施。

【家庭、地域との共育の推進】

- へき地・複式・山村留学校である本校は、家庭や地域住民が共に学ぶ中核としての機能を果たすことも求められています。保護者や地域社会と双方に連携を図りながら「教育における協働」の関係、つまり、地域の自然、人材、文化、情報などを共通の基盤とし、双方向に連携して子どもを育てる関係を築いていきます。



- 学校と地域が一体となり、「どのような子どもを育てたいのか」、「どのような地域社会を作りたいのか」という共通の目標をめざし、「地域とともにある学校」への転換を図るため、学校と地域がパートナーとして、子どもも大人も学び合う教育体制を構築していきます。
- 学校・家庭・地域が支え合う「協働体制」を構築し、学校組織が「学びの共同体」としてより有機的に機能させるため、学校評価を基にこれまでの教育活動の改善や再編成を行います。
- 志比内2年方式の総合的な学習の時間と全校児童や各学級による特別活動の再編成や改善による実施を確実に進めます。

② 学び方の基礎・基本 確かな学力の定着を図る学習指導

確かな学力の定着を図る学習指導

基礎・基本を重視し、児童一人一人の個性を生かし、『分かる喜びが味わえる授業』の中で、確かな学力を育てます。

特に本年度は、確かな学力を身につけ、新しい時代を生きぬく資質・能力を育てるために、異学年指導での主体的な学び、合同学習での対話的な学び、習熟や活用場面での深い学びを充実させる指導法の工夫を図ります。さらにこれまでの実践を継続し、基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着、自ら考え、既習事項を生かして粘り強く取り組む習慣の形成、自他の良さに気付き、考えを深めたり高めたりする意識の高揚を図り、学び楽しさや意義を体感させます。



【学習活動では】

- ①学習過程では、学習課題を明確にし、まとめや終末を大切に学習活動を展開します。
- ②学習指導において、既習事項を生かす学習活動の展開や教材 教具の工夫をします。
- ③終末活動において、知識・技能を活用する学習活動の展開を工夫をします。
- ④全国学力・学習状況調査やチャレンジテストの活用を図ったり、発展的・補充的学習や繰り返し指導をしたりします。子どもの実態把握に努め、教育課程の改善・充実を図ります。
- ⑤毎時間や単元のふり返りにより、「わかったこと」「できたこと」を子ども自身に実感させ、達成感をもたせる。
- ⑥学習の跡（成果）が見られるよう、学習環境（掲示物など）を整備します。
- ⑦朝読書や読み聞かせなど、読書活動を推進します。
- ⑧朝学習や家庭学習の工夫を図り、内容の充実と習慣化を図ります。
- ⑨板書とノートづくり、複式指導の在り方、話形（発表の仕方）について研修し、

学習ルールを全校でそろえます。



【学習指導・授業形態の工夫】

- 志比内小学校のよき伝統の一つが少人数ならではのきめ細かな指導です。その成果がこれまでの全国学力・学習状況調査の結果につながっています。今年度もさらにきめ細かな指導ができるよう授業形態の工夫に努めます。特別活動や総合的な学習の時間、体育など全校で行う授業時にはグループ別に複数で指導を行ったり、各教科においては、必要に応じて単式指導も取り入れていきます。さらに学習内容により専科制を進めていきます。



【学び方・学習習慣の形成】

- 授業では、学習のルールを徹底するとともに、ICT等の活用や「ノート」の取り方を重視します。また、保護者の皆さんと連携し「家庭学習のすすめ」の定着を図ります。さらに、今年度もチャレンジテストを活用するとともに、家庭と連携して望ましい生活習慣を形成します。
- 全校朝学習の時間に、異学年が互いに「学び方」を学び合わせ、刺激し合うことで、学年に応じたより良い学習態度や学習習慣を身につけさせていきます。



【地域学習・体験学習・交流（集合）学習の重視】

- 地域の自然・文化的条件を教材として積極的に開発し、活用を図ります。自ら学ぶ意欲を高め、自己教育力を身につけ、より良い生活を自ら創り出す子の育成の観点から、体験的な学習の充実を生活科や総合的な学習の時間との関連を図りながら推進します。
- また、地域との交流などを通して地域や地域の人たちへの郷土愛を育みます。
- さらに、東神楽小学校や東聖小学校との交流を通し、同学年複数で実施する教育活動の充実を図ります。

<体験学習の例>

- ・栽培活動（野菜・花）
- ・農業体験
- ・志比内川での体験（遊び、放流、観察等）
- ・自然を活かした行事
- ・志比内っ子餅つき



【授業実践力を高める研修の充実】

- 教材研究、学びの質を高める授業改善に取り組み、子どもたちの学力向上に努めます。
- 昨年も、教育関係者の方々から少人数・複式学級における学習指導やICTを活用した教育の在り方について多くの示唆をいただきました。その成果や課題に基づき、本年度も校内研修を組織的に取り組みます。
- 実践的指導方法を研修したり、校内で特設授業を行うことで、教職員の指導力の向上に努めていきます。



③ 生き方の基礎・基本 豊かな心と人間性を育む教育の推進

家庭と連携し、心のふれあいを大切に、日常の基本的な挨拶や礼儀、学校のきまりを守る態度、望ましい生活習慣や態度などの生活の基本的な行動様式を身につけさせます。体験活動や道徳の時間の充実、将来の夢や希望をもたせる指導の充実を図り、互いに高め合いながら助け合う心、思いやる心や広い心豊かな心と豊かな心を育てます。特に「マイノート」、「花咲き山」などの充実により道徳的実践力や自己肯定感や有用感の向上を図り、自己の生き方を豊かに表現できる子を育てます。そして全教職員での組織的で意図的な「ほめて伸ばす指導」を継続し、子どもが主体的に取り組む姿勢を育成します。

【「心の居場所」のある学級経営】

- 志比内っ子一人一人に心の居場所があり、豊かな人間関係を育てることができ学級経営を充実させます。「マイノート」の取組を継続（→上川版マイノートを実態に合わせて編集した志比内小バージョンを使用）し、発達段階に応じた指導の工夫を行います。
 - ・年間、学期、行事などでやりたい自分を明確にしたり、目標達成に向け計画を立てさせたりして、学ぶ意欲を高め学習したことが将来につながることを実感させます。
 - ・また、子どもの良さくみんな違ってみんないいを生かし、公平さと愛情のある学級経営に努めます。話し合い、相談などで自分の考えの意図や意味などを相手意識をもって伝え合う活動を多くします。



【花咲き山の活動を通じた心のふれあい】

- 相手の立場を考えるとともに、個から学級、学級から全体へと目を向けながら、共にみがき合い、高め合う態度を育てます。子ども同士の認め合いや感謝を表現する活動により、児童一人一人が自己の肯定感・存在感を見いだすことにより、いじめの未然防止の基盤としていきます。
 - ◇各学級の朝・帰りの会での発表交流・掲示活動
 - ◇朝学習の時間で紹介したものを掲示



【読み聞かせ等、読書習慣を定着させる活動の充実】

- 本年度も読み聞かせ会を行い、本に親しむ機会をより多く設けます。
- 教員による読み聞かせ、子ども同士の読み聞かせ、保護者や地域のボランティアの皆さんによる読み聞かせなどを実施し、読書習慣の定着を図ります。



【縦割り班活動の充実】

- 異学年交流において、子ども同士が支え合う活動の中で、互いを思いやり、認め合い、協力して物事を進める態度を養うことを目的とします。給食当番や清掃活動、クリーン作戦などのボランティア活動を通して、望ましい人間関係や社会性・協調性を育成します。

【心のこもった挨拶の継続】

- 子どもたち全員の良い挨拶が地域に学校内に響きます。今後も「心のこもったさわやかな挨拶」、「場に応じた言葉遣い」、「落ち着きのある行動」など心のふれあいを大切にしながら、望ましい生活習慣・態度を養います。



【組織的な生徒指導によるいじめ等の問題行動への対応】

- 教師と児童、児童相互の関わり合いを重視し、信頼関係を基にした学級経営や教育活動を展開します。
- 組織的な対応と確実な情報共有を行い、児童への対応力・指導力の向上を図り、いじめを組織的な対応で防いでいきます。
 - ・日常的な行動観察と保護者との連携を図ります。
 - ・全職員が子どもたち一人一人の担任として共感的理解の生徒指導を推進します。
 - ・月ごとの生徒指導交流を行います。
 - ・アンケート、個人相談を活用し、いじめの発見を確実にいきます。



【地域と連携した花咲きプロジェクトの展開】

- 開基・開校100周年を記念して、児童会が知恵を出し合い、志比内のいろいろなところでコスモスを咲かせる花咲きプロジェクトが始まりました。今年度は、日頃お世話になっている地域の皆さんに年賀状を送り、ふるさとを愛する心を育む活動に取り組んでいきます。

【特別支援教育】

- 特別支援教育コーディネーターを中心に関係機関（パートナー等）と連携を図り、学習面や行動面でのつまづきや困難の状況を正確に把握し、学校全体での共通理解と児童への配慮や支援に努めます。また、保護者向けに、学校通信や懇談等で情報発信を定期的に行います。そして保護者との面談や情報共有を確実にし、家庭と一体となった特別支援教育の充実に努めます。



④ 暮らし方の基礎・基本 健康でたくましい心身を育てる健康・安全指導

うるおいのある教育環境の中で、のびのびと楽しく生活していくと共に、一人一人が強い意志を持ち、最後まであきらめず主体的に行動する子を育てます。また学校は、自他の安全に気を付けて生活する実践的態度の育成に努め、家庭・地域、関係機関との連携を図ります。そのために、校内外の危険箇所の的確な把握を行い、常に危機管理マニュアルの見直しを図りながら、様々な事態に対応できるよう高い危機意識をもって指導していきます。

＝ 体力づくり ＝

【体育的行事の改善・充実】

- ・今年も感染状況を考慮しながら、地区との合同運動会か、学校単独でのスポーツフェスティバルか、実施方法を判断していきます。
- ・子どもの実態を考慮し、遠足や水泳教室、スキー授業、スキー遠足など体育的行事の改善と充実を図ります。

【体力テストの実施（2回）】

- ・全学年で、全国体力・運動能力、運動習慣等調査を行い、子どもの実態を把握し、子ども一人一人に目標をもたせ運動能力を高める指導を行います。「どさん子元気アップチャレンジ」に参加し意欲化を図るとともに、子どもが自分の体力の状況を理解し自主的に体力運動能力の向上に取り組める環境づくりを進めます。

【体育の日常化】（業間、昼休みの活用）

- 春：一輪車、短距離走
- 夏：マラソン、縄跳び
- 秋：マラソン、縄跳び
- 冬：歩くスキー

＝ 保健指導 ＝

- ・「早寝・早起き・朝ご飯」など望ましい生活習慣の形成に向け家庭と連携して取り組みます。学級指導、担任などによる個人相談を行います。さらに、栄養教諭・関係機関の協力を得て、食育指導や薬物乱用防止教室を行います。

【全校給食指導】

- ・全校児童が給食を同じ場所で職員と一緒に食べることで、「食事のバランス」「食事のマナー」「食材の安全性」等の指導を受けることにより、確実に身につけていくことを目指します。
- ・初めの挨拶の前に、本日の給食マナーの確認をし、課題意識をもって食事をし、全校児童が同じめあてを達成する取組を継続します。
- ・児童の食物アレルギーに関する情報を全職員で共有して指導にあたります。

【健康な歯づくりのための取組の充実】

- ・北海道教育庁普及事業、東神楽町教育委員会事業の「フッ化物洗口」を希望者には実施して、子どもたちに健康な歯を形成します。
- ・また、学校歯科医による歯磨き指導を実施し、望ましい歯磨きの日常化に努めます。

【感染症の拡大を防ぐ取組の充実】

- ・日常的に児童の健康観察と把握に努め、手洗い・うがい・咳エチケット等の意識を高める指導を継続し、感染症の拡大を確実に防いでいきます。

＝ 安全指導・管理の徹底 ＝

【安全教室の実施】

- ・通学路の安全確認など安全教室を行います。交通安全指導や志比内川での遊びなどの校外指導、学校生活での事故防止に取り組めます。
- ・不審者対応など安全指導の年間計画に沿って確実にいきます。
- ・今年も保護者、地域住民と連携し、放課後の「生活の質」、「遊びの質」を高めることに取り組めます。

【避難訓練の実施】

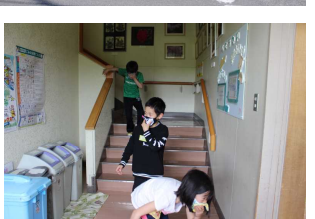
- ・火災、地震、水害、不審者等への対応の避難訓練を年2回行います。

【校舎内外の施設・設備の安全点検】

- ・毎月1日には、校内外の危険箇所の的確な把握を行い適切な処置をします。

<実施例>

- ◇地バチ、スズメバチの駆除
- ◇熊出没への対応（メール・文書）
- ◇立ち枯れの桜の木の撤去
- ◇複合型遊具の定期点検
- ◇通学路の危険箇所の点検



⑤ 保護者・地域とともにある学校づくり

児童がよりよい教育活動等を楽しめるよう、学校運営の改善と発展を目指して学校評価を行います。教育の機能をどの程度果たしているのかを総合的、客観的に地域・保護者・学校が評価し、その結果に基づいて教育活動全般について改善と伸長を図ります。

今年度も右図のとおり行い、改善策を保護者や学校関係者、地域の皆さんに広く公開し、志比内小の教育を支えていただいている皆様の願いを生かすとともに、コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)の取組を通して、「地域の信頼に応える学校づくり」を更に進めていきます。

保護者・地域との連携した行事はもちろん、日常の授業や集会などいつでも学校を公開します。さらに、学級通信、志比内広場(学校だより)、山村留学推進協議会ホームページなどでも積極的に学校生活の様子を公開します。

【保護者、地域との連携】

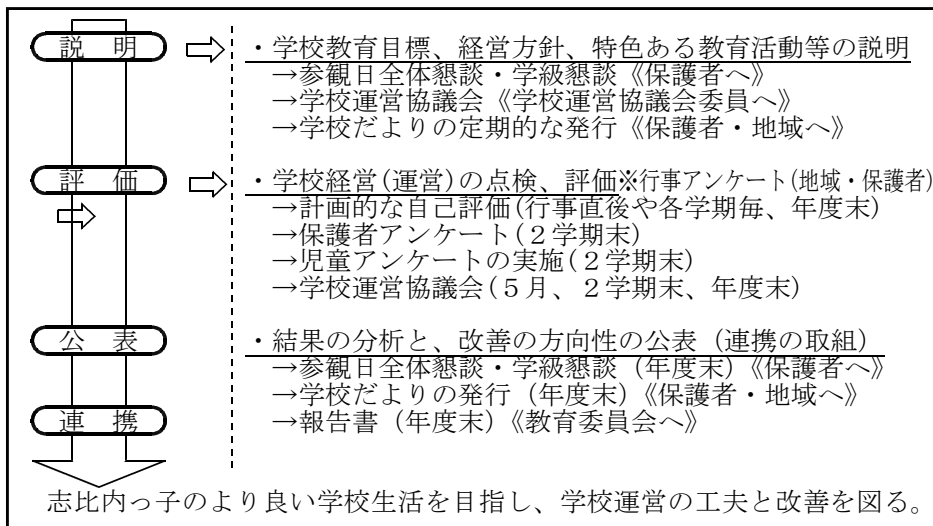
- ・児童の成長や努力を保護者や地域と共有し、望ましい生活・学習習慣を図るための教育活動や情報提供などで連携を深めていきます。そして地域の活性化につながる活動を目指します。児童より、地域の方へ年賀状を出すことで、日頃の感謝を伝え、関わりを深めていきます。
- ・春、夏の花苗植えなどのボランティア活動や運動会などの学校行事、生活科や総合的な学習の時間など授業で連携を図ります。さらに、公民館事業や山村留学推進協議会行事や子ども会行事への積極的な参加を促します。

【外部講師・ボランティアの皆さんとの連携】

- ・道警東神楽交番及び東川駐在所、税務署、東神楽町役場(健康ふくし課、子ども未来課等)、大雪消防署などの専門家の皆さんと連携を図ります。
- ・また、北海道教育大学旭川校の学生(運動会、学芸会)、外国人講師(ALT)、等との連携を図ります。

【地域行事への積極的参加】

- ・8月の地区盆踊りや子ども会行事など、町や地区主催行事に積極的参加を推奨し、町や地域の一員としての自覚と郷土愛を育てます。



~~~~~ 情報の発信 ~~~~~

【子どもの活動が見える掲示の工夫】

- ・教室前の掲示板はもちろん、職員室前などの掲示を子どもたちの思いや日常実践が伝わるよう工夫をします。

【志比内広場(学校だより)の工夫】

- ・班長の皆さんのご協力で志比内地区全ての家庭に学校だよりを配布しています。内容を更に充実するよう工夫改善を図ります。
- ・全戸に月1回、保護者家庭には月2回発行します。
- ・今年度も、遠距離の保護者や祖父母に向けて、インターネット(ホームページ)で積極的に活動を配信し情報公開をします。

【山村留学推進協議会との連携】

- ・特認校、山村留学の活動内容を山村留学推進協議会等と連携し、随時更新公表していきます。

山村留学推進協議会ホームページ

<https://hokkaido-shibinaishou.amebaownd.com/>

4 本校の教育目標具体化の全体構造

